

アリス・ベイリー著
『テレパシーとエーテル体』

読書会 & シェア会

生命システム研究所

あんどうさわこ・根本泰行

お願い: ZOOMでの表示名を参加申し込みをした時のお名前にしてください。

大祈願

神の御心の光の源より

光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
光を地上に降くだらせ給え

神の御心の愛の源より

愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
キリスト（如来）よ、地上に戻られ給え

神の意志、明らかなる中心より

大目的が人の貧とほしき意志を導かんことを
如来は大目的を知り、これに仕え給う

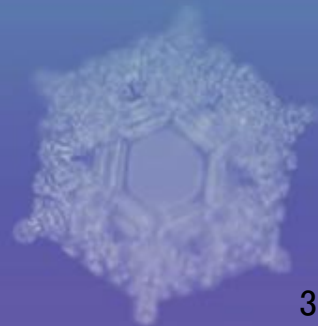
我らが人類と呼ぶ中心より

愛と光の大計画を成させ給え

悪の棲すみか処の扉を封じ給え

光と愛と力とをもて地上に大計画を復興させ給え

読書会



今日のスケジュール

読書会(21時5分位から1時間)

●担当:根本泰行

シェア会(読書会の後)

●担当:あんどうさわこ



アリス・ベイリー (Alice Ann Bailey, 1880年6月16日 - **1949年12月15日**)

神秘主義関係の作家で、神智学協会から派生した「アーケイン・スクール (不朽の知恵、秘教占星学)」の創立者。

米国では神智学協会に参加、ここでブラヴァツキーの著書に接し、協会員となった。1920年、アメリカ神智学協会で働く神智学者フォスター・ベイリーと再婚。その前年、大師 (マハトマ) の**ジュワル・クール** (英語版) からのメッセージを受け取るようになったという。

1922年、夫妻はルシファー出版社 (後年、**ルシス・トラスト** (英語版) に改名) を設立。1923年、彼女は「アーケイン・スクール」 (Arcane School) という団体を創設し、大師から受けたという教えを広めた。

『テレパシーとエーテル体』 Telepathy and the Etheric Vehicle. (**1950**)



ジュワル・クール大師 (Djwal Khul) 翻訳書3~4頁

私は他の人々と同じような肉体をまとってチベットの辺境に住んでいる。そして、私の責務が許すときには、（現世的な意味で）時にはチベットのラマ僧の大きな一団を統括している。私がこのラマ寺院の院長であると伝えられているのはこの事実によるものである。

私は一般の学ぶ人々よりも少しだけ長く道を歩み、そのためより大きな責任を背負う、**あなた方の兄弟**である。

私が書いた本は、受け入れるよう要求することなく世に出される。それらは正しく真実で有益なものかもしれないし、そうではないかもしれない。それらが真実であるかどうかを適切な実践と直感の修練によって確信するのはあなた方の役目である。

語られていることが結果として確証に結びつくならば、もしくは、類似（対応）の法則のもとで照らし合せて正しいと思われるならば、それは申し分のないことである。しかし、そうでないならば、言われたことを受け入れてはならない。

テレパシーとエーテル体

Telepathy and
the Etheric Vehicle

アリス・ベイリー 著
AABライブラリー 翻訳・発行

第二部 エーテル体に関する教え

- 1 エーテル体の性質…………… 162
- 2 非分離の基礎…………… 172
- 3 惑星と人間のセンター…………… 184
- 4 センターとパーソナリティー…………… 192
- 5 空間の性質…………… 203
- 6 惑星生命——太陽系の一つのセンター…………… 209

アリス・ベイリー原著

https://www.lucistrust.org/online_books/telepathy_and_the_etheric_vehicle_obooks

Telepathy And The Etheric Vehicle

Sub-sections:

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 1](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 2](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 3](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 4](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 5](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 2](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 3](#)

SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1

TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE

I. THE NATURE OF THE ETHERIC BODY

See Chart Evolution of a Solar Logos

Much that I may say here may be familiar to a certain extent, because there is a vast amount of information anent the etheric body scattered throughout my various books. It will have its value however if students can receive in a few pages a general idea and the basic concepts which underlie the teaching—or should I say, the fact? If they have the time, students would find it of profit to re-read what I said; run their eyes rapidly through the books and papers in search of the word "etheric." They will never regret it. Life itself, the training to be given in the future, the conclusions of science and a new mode of civilisation will all increasingly be focussed on this unique substance which is the true form to which all physical bodies in every kingdom in nature conform. Note that phraseology.

【補足】Yukoさんからのご指摘

- **ハート・センター**(p.218、1行目～)
 - **ハイラーキー**という惑星センターからのエネルギーは**ハート・センター**を用いる。このセンターは、個々の熱誠家や弟子の**魂**を通して働く**聖なる愛**の媒介である。これは、魂との接触がある程度達成され、熱誠家が魂を吹き込まれたパーソナリティになる途上にあるときに可能になる。
- **喉センター**(p.218、5行目～)
 - 第3の惑星センターである**人類**からのエネルギーは**喉センター**を用い、**統合したパーソナリティ**を通して働く。したがって、これは比較的高い進化的な開花が達成されたときにのみ可能である。
- **ヘッド・センター**(p.217、後ろから4行目～)
 - **シャンバラ**という惑星センターからのエネルギーは、**人間が十分に発達したとき**、**ヘッド・センター**つまり**千枚の花弁を持つ蓮華**を用いる。それは、アンターカラナが構築されたか構築される過程にあるときに初めて、前向きに有効になる。
- 従って、**ハート**⇒**喉**⇒**ヘッド**の順番に開いていくとのこと。
- 抽象マインドを訓練するために、わざと分かりにくくしている。
- 準備のできていない人には理解できないように、わざと分かりにくくしている。

2023年12月13日(水)

『テレパシーとエーテル体』

6 惑星生命－太陽系の一つのセンター

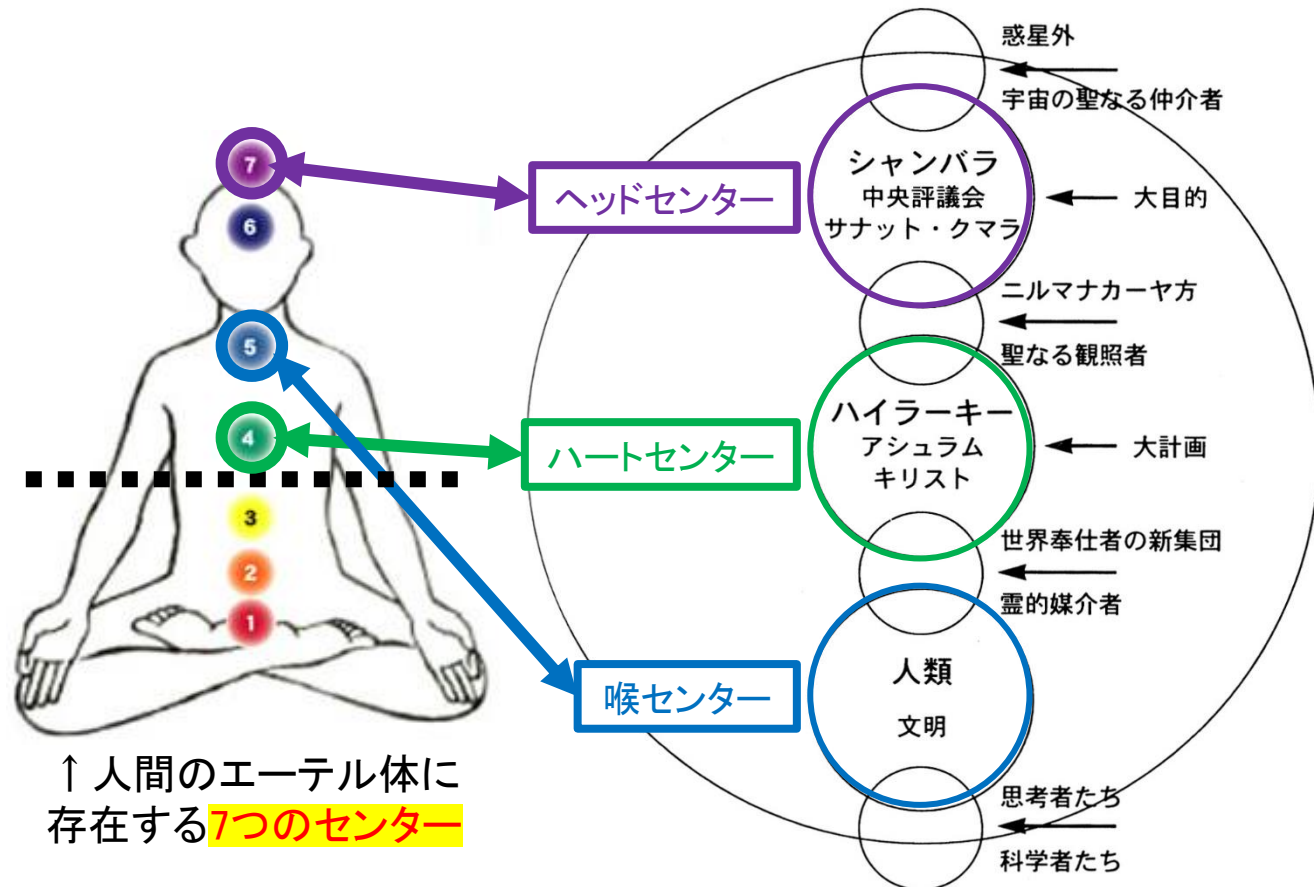
220頁、後ろから1行目から始めます！

惑星と人間のセンター間の関係

p.220: 後ろから1行目以降

1. 横隔膜よりも下にあるセンターと上にあるセンターの関係
2. 3つの(人間の)主要センターそれぞれの関係
3. 3つの(人間の)主要センターと3つの惑星センターの関係

これはすべて、**シャンバラ**の本質的な自由と**ハイラーキー**の方向づけのもとで惑星のエーテル体の至るところに(したがって、人間のエーテル体にも)分配される循環し自由に動く**エネルギー**という観点から考えなければならぬ。



太陽系における進化過程

p.221: 後ろから8行目以降

- (三つの太陽系のうち) この第二の太陽系の進化的な開花過程における基本的な原型になるものは、**関係**という**主題**である。
- この太陽系は**子の太陽系**であり、**神の第二様相**の特質である**愛**が完成されつつある。

【参考】『秘教心理学・第1巻』

p.49-50

- **生命・特質・外観**という用語を、よく使われている**霊・魂・肉体**、もしくは**生命・意識・形態**という**三位一体**と言い換えてもかまわない。
 1. **生命**…**第1様相(意志)**、**霊**、**父**、エネルギー、電気の火。
 2. **特質**…**第2様相(愛と知恵)**、**魂**、(**父=霊**と**母=物質**の間に生まれた)**子**。
 3. **外観**…**第3様相(活動知性)**、**物質**、**母**、**形態**、客観的表現、摩擦の火。

【参考】秘教のルーツであるオリエント

<https://ameblo.jp/karasuuri0709/entry-12686146657.html>

オリエント秘教は、**ミトラ(ミスラ)教**という形で西方にかなりの影響を及ぼし、その一部は**イスラームの神秘主義**にも受け継がれていったようです。のちの**ルネサンスの文化**や**ユダヤ教のカバラ**にも多大なる影響を与えています。

秘教の骨格である、

- **第一の神**、超越者、一者、父
- **第二の神**、ロゴスの神、叡智、子、
- **第三の神**、活動知性、原初物質、女性原理

という**三つ組**は、この流れの中で生まれました。

キリスト教は**父・子・精霊**、**ミトラ教**では**ズルワーン・ミトラ・レアー**、**神智学**では**第一様相・第二様相・第三様相**、などというように、多くの秘教の「三つ組」に流れ込んでいるのです。

太陽系における進化過程

p.221: 後ろから8行目以降

- (三つの太陽系のうち) この第二の太陽系の進化的な開花過程における基本的な原型になるものは、**関係**という主題である。
- この太陽系は**子の太陽系**であり、**神の第二様相**の特質である**愛**が完成されつつある。
- 必要性の法則のもとで長い進化的開花の周期の間に、**人間**は**最初は無意識のうちにこの完成に向けた過程に参加する。**しかし、**熱誠家**になり、**霊的な円熟に向けて道を一步踏み出したとき、彼は重要な役割を演じ始める。**そして、**霊的な解放**を成し遂げ、**第四王国**つまり**人間王国**での**奉仕を完成させていくこと**を通して**ハイラーキー**、つまり**第五王国**のメンバーになるまで、その役割を演じ続けることになる。
- **第四王国**と**第五王国**の**関係**は絶えず深まりつつあり、それが人類家族に新しい力とより活力ある活発さをもたらしているが、この活発さは人類のうち最も進歩したメンバーたちによって意識的に感知されている。

ハイラーキーからのエネルギーの分配

p.222:2行目以降

- ハイラーキーからのエネルギーの分配は非常に興味深い結果を引き起こしている。
- ハイラーキーは愛の主、キリストのアシュラムである。
- このより大きなアシュラムは七つの光線のアシュラムからなっており、それぞれの中心に一人のチヨハンもしくは知恵の大師がおり、七つのアシュラムにはそれぞれ、一つ以上の二次的なアシュラムがあることも、私たちは知っている。

【復習】『テレパシーとエーテル体』 p.185:10行目

惑星ハイラーキー

S サナット・クマラ、世界の主
(日の老いたる者、一なるイニシエーター)

三人のクマラ方
(活動の仏陀方)
1 2 3

シャンバラ

三つの主要光線と四つの従属光線の反映

ハイラーキー

三つの部門の長

I 意志の様相

II 愛と知恵の様相

III 知性の様相

A マヌ

B ボーディサットヴァ
キリスト (世界教師)

C マハチヨハン
(文明の王)

b ジュピター大師

b ヨーロッパ人の大師

c モリア大師

c クートフーミ大師
d ジュワル・クール大師

c ベニス人の大師
4 セラピス大師
5 ヒラリオン大師
6 イエス大師
7 フコツツイ大師

四つの段階のイニシエートたち

様々な段階の弟子たち

見習いの道にある人々

人類

あらゆるレベルの平均的な人類

アシュラムについて①

p.222:7行目以降

- アシュラムは、ハイラーキーによる印象づけを世界に発する源である。
- その「衝動的なエネルギー」とその刺激するフォースは、外的な世界において自らの職務、義務、責任を進めるそのグループのメンバーたちの磁力的な生き方を通して人類の意識拡大へと向けられる。
- それはまた、肉体に転生していないアシュラムのメンバーのしっかりとした振動活動によって、そしてアシュラム全体の一致した明晰な思考と確信に満ちた認識によって促進される。

アシュラムについて②

p.222:7行目以降

- ほとんどの熱誠家(すべてではないが)のような初心者たちは通常、アシュラムの存在事実に夢中になっている。
- 訓練を受けた弟子たちは行うべき仕事に没頭しており、彼らがアシュラムについて考えることはほとんどない。
 - 彼らは、目の前にある仕事や、人類と奉仕を受けるべき人々が何を必要としているかに没頭しているため、アシュラムやその中心にいる大師について考えることはほとんどない。
 - 彼らは、アシュラムの意識の不可欠な部分であり、古代の書において、「彼らを通して流れるものを発し、真理そのもののフォースであるハートの教義を教え、イニシエートではない人が『愛の光』という名前を与えている流れに乗って運ばれる生命の光を放射する」と呼ばれていることに意識的に携わっている。

アシュラムのメンバーたち

p.223: 1行目以降

- アシュラムのメンバーたちは、現在世界に流入している新しいエネルギーのための一丸となった経路になっている。
- これらのエネルギーはアシュラムを通して人々の世界にダイナミックに注がれ、アシュラムのハートにいる大師を通して力強く流れている。
- それらは内的な円の至るところを「光の速度」で動き、外的な円を構成する人々によってステップダウンされるが、これは適切で良いことである。
- それらは、人々の世界に吹き出るのを初心者や新しい弟子によって遅らされるが、これはあまり良いことではない。
- それらが遅らされるのは、新しい弟子が人々の世界に背を向け、彼の目が外的な奉仕ではなく内的なゴールに釘付けになっているためである。彼らは、大衆の必要にではなく、大師や古参の弟子と働き手に注目を固定している。

至るところにいる奉仕者

p.223:9行目以降

- 至るところにいる奉仕者—善意のある知的な人々—は、行うべき仕事を新たにはっきりと把握し、聖なる流れにおける「利己的な関心という遅らせる点ではなく、中継する経路」になることが極めて大切である。
- そのためにはビジョンと勇気が必要である。自らの生活を—毎日、すべての関係において—時代の必要と人類への奉仕に合わせるには勇気が必要である。
- 他の人々のために人生の問題に取り組み、緊急時や必要時において自分自身の個人的な願望を抹殺し、首尾一貫してそうし続けるには勇気が必要である。

奉仕者に勇気を与えること①

p.223: 後ろから5行目以降

- 人類は今、ハイラーキーの大計画—同胞愛、分かち合い、国際主義、統一、もしくはあなたの好きなように呼びなさい—を明確に把握できる発達段階に到達している。
- このことは、世界の思想家や秘教徒、啓発された宗教的な人々、心の広い政治家、包括的なヴィジョンと人道的な洞察力のある実業家やビジネスマン、そして今日では街角の人々によってさえ、ますます実際に理解されつつあり、一般的に認識されている。
- 現れつつある霊的な価値観がより明確に認識され、奉仕の障害になるものを放棄する準備がより整っている。

奉仕者に勇気を与えること②

p.224: 1行目以降

- 人類を解放するためのキリストの計画は一層円熟している。
- 人間の熱誠の傾向がより明確に強くなるまで、それらの計画は延期されなければならなかった。
- 新しい時代がその潜在的な可能性と共に今、十年前にはそれを覆い隠していたグラマー（根本注：Glamour 『幻惑』）と希望的思考を脱ぎ捨てて、地平線に見えるようになっている。
- これはすべて弟子に対するチャレンジである。
- 弟子は何をなすべきであろうか。

弟子がすべきこと

p.224:7行目以降

- どのような時でも、装備がどのようなものであれ、どのような状況に置かれていても、弟子はあるがままの自分を受け入れなければならない。
- そうすることで、自分自身を、自分に関することを、自分の時間を時代の必要に従属させるようになるーグループ、国家、世界が危機に瀕しているときは特にそうである。
- 自らの意識内でこのようにし、真の価値観に従って考えるとき、自らの個人的なことが整えられ、能力が増大し、自らの限界を忘れていることに気づくであろう。
- 彼は、来るべき周期において必要なものを感じ取る人々と共に席に着くーこの来るべき周期においては、新しいアイディアと理想を強調し、そのために闘わなければならない、全体のための一層広い計画を理解し、支持し、伝えなければならない、人類の生活のための新しいより明瞭なビジョンを把握し、最終的には実現しなければならない。そして、世界奉仕者の新集団のメンバーはすべて、人類の重荷を軽くするために努力しなければならない。

ある秘教的なマントラム

p.224: 後ろから2行目以降

- **このような姿勢** – **ハイラーキーの意図**を**人間**の**熱誠**と結びつけることで、人類をその目標に近づけるために、他の人々と協力して懸命に努力している**弟子の姿勢** – を具体的に言い表している**ある秘教的なマントラム**がある。
- **ハイラーキーの意図**は、「**豊かな命**」(ヨハネによる福音書・第10章10節)によって効果的に機能するために、人々の自由を求める能力を増大させることである。
 - 『盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。**わたしが来たのは、羊が命を受け**るため、**しかも豊かに受け**るためである』(ヨハネ 10:10)
- 「**豊かな命**」は、**キリストがもたらすもの**であり、**人間の霊が自由になること**を求めるものである。その**自由**とは、**神性に接近する自由**であり、その**接近の道を選択する自由**である。
- そのマントラムには「**弟子の断言**」(=「**弟子のアファメーション**」)という名前がつけられている。それには、**直観が十分に目覚めている人**であれば**容易に理解**できる**ある内的な認識**と**受諾**が述べられている。その意味は、もしそれが真剣に学びを考える人々に対して、重要なもの、努力に値するものとして注意を喚起するならば、彼らの洞察力を超えたものではないはずである。

『弟子の断言（アファメーション）』

p.225: 後ろから7行目以降

私は、より偉大な**光**の中にある一点の光である。

私は、聖なる**愛**の流れの中にある愛あるエネルギーの燃り糸である。

私は、神の燃えるような**意志**の内に集中する一点の犠牲的な火である。

かくして私は立つ。

私は道であり、それによって人々は達成を得る。

私は強さの源であり、それによって人々は立つことができる。

私は人々の道を照らす一条の光である。

かくして私は立つ。

このように立ちながら、思いを巡らせ、

このように人々の道を歩み、

そして神の道を知る。

かくして私は立つ。

“The Affirmation of the Disciple”

I am a point of light within a greater **Light**.

I am a strand of loving energy within the stream of **Love** divine.

I am a point of sacrificial Fire, focussed within the fiery **Will** of God.

And thus I stand.

I am a way by which men may achieve.

I am a source of strength, enabling them to stand.

I am a beam of light, shining upon their way.

And thus I stand.

And standing thus, revolve

And tread this way the ways of men,

And know the ways of God.

And thus I stand.

お知らせ

生命システム研究所

<https://life-system-labo.com/>

- 葦原瑞穂・著『黎明』と私論『宇宙の創造原理』③
 - 日時: 12月23日(土)13:30~16:30
 - 参加方式: 会場(アクエリアス) または ZOOM
 - 内容: 『黎明』(2017年新版、葦原瑞穂・著、太陽出版・刊)の 上巻の「第十一章 生れ変り」から「第十五章 チャネリング」までに記されている内容をご紹介するとともに、試論・私論『宇宙の創造原理』との間での考え方の共通点・相違点について議論します。
 - 詳細: ウェブサイト準備中
 - お申し込み: ウェブサイト準備中

満月ツインハート瞑想会 & 新月読書会

毎月満月の日の21時～22時に、ZOOM上で無料で開催します。
初心者大歓迎！ 聖なる愛と光を地球全体に送るための瞑想法です。

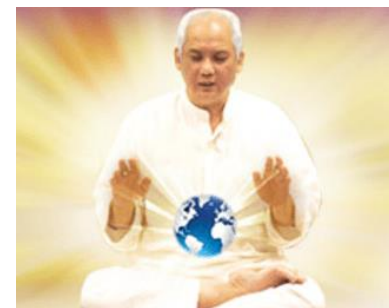
- 2023年12月27日(水)21時～22時、担当: あんどうさわこ
必ずウェブサイトから申し込んでください。

<https://life-system-labo.com/2022-3twinheart/>

- 2024年も同様に、毎月満月の日の21時から、
ZOOM上で、ツインハート瞑想会を開催します！

- 2024年も、2023年と同様に、毎月新月の日の21時から、
ZOOM上で、読書会とシェア会を開催します！

- 2024年のテキストとしては、アリス・ベイリー著『テレパシーとエーテル体』の前半に掲載されている『テレパシーに関する教え』を扱います。



シェア会

